

サイコロン2 I

2025.10 SAIKORO CULB

CONTENTS

- ▶ TRPG ってなあに？
- ▶ サイコロ俱楽部年間活動報告
- ▶ エモクロア TRPG リプレイ
- ▶ あとがき

► TRPG ってなあに？

TRPG とは、Table talk Roll Playing Game

「楽しく喋りながら、役割を演じるゲーム」のことです！

ゲームで遊ぶ人たち「プレイヤー」は、架空世界の住人である「キャラクター」を演じ、司会進行役である「ゲームマスター」と共に、その物語がより良いもの、素敵なものとなるように行動していきます。有名なドラゴンクエストやファイナルファンタジーといったコンピューターRPG とは異なり、TRPG には決まったストーリーはありません。ゲームマスターが用意した物語のあらすじ「シナリオ」があるだけで、その他の内容は、プレイヤーとゲームマスターが即興の会話で作り上げていきます。用意したシナリオと同じでも、遊ぶプレイヤーが違えばそれは全く違った物語となるのです。

遊び手の想像力次第で、無限に広がる物語。それが TRPG の最大の魅力です。

▷ TRPG 基本用語

PL…プレイヤー。ゲームを遊ぶ人のことです。

GM…ゲームマスター。ゲームのシナリオを作り、司会進行をする人のことです。

PC…プレイヤーキャラクター。PL がゲーム内で演じる役のことです。

NPC…ノンプレイヤーキャラクター。GM が演じる、PC 出ない役のことです。

ダイス…サイコロのことです。3D6 や 1D100 のように（振るサイコロの個数） D（サイコロ一つの面の数）で表されます。

判定…ゲームの中の PC の行為が成功するか、サイコロを使って決めることです。PC の能力値+サイコロの出目が GM の設定した数値を上回れば成功です。

達成値…判定の際に出た数値です。いかに上手く行為が出来たかを表します。

クリティカル…特別な出目（エモクロア TRPG では 1）の時、その行動は必ず成功となります。結果にボーナスが発生する時もあり、行動を有利に進められます。

ファンブル…特別な出目（エモクロア TRPG では 10）の時、その行動は必ず失敗となります。時にペナルティが発生してしまうことも…！？

► サイコロ俱楽部年間活動報告

年間活動スケジュール

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
会・体験会	新入生向け説明	自主活動	学園準備	◎春正規活動	学園祭準備	◎学園祭		自主活動	◎秋正規活動	自主活動	自主活動

サイコロ俱楽部では以上のような活動を行い、ゲームを楽しみながら交流を深めています。春・秋の正規活動では、例年長編ストーリーのTRPGをプレイしていて、近年はオンラインでのプレイが多くなっています。GMやPCが工夫を凝らし、笑いと感動に満ちた楽しいゲームが作られています。

次からは、2025年春の正規活動のリプレイを載せています。

▷ リプレイとは？

リプレイとは、実際に行ったセッションを収録し書き起こして、読み物の形式にまとめたものです。

「TRPG ってなんだか面白そうだけど、実際はどんな感じなんだろう？」というあなたに、楽しさが少しでも伝われば幸いです。

●emotional+Folklore-エモクロア TRPG プレイ

「春を待つ」

GM：ここん

■ エモクロア TRPG とは？

エモーショナル（感情）+フォークロア（伝承の存在）…エモクロア。

私たちの暮らす現実とよく似た、もう一つの世界。

超常的存在、【怪異】たちが人々のそばに存在する世界が舞台となる。

■ あらすじ

四限の授業が終わった。あなた達はラウンジに集まり、課題や就活の資料を広げる。それは難航し、日暮れまであなた達は頭を抱え続けた。そんな中、とある少女が現れる。身長 30 センチほどの少女はあなた達にこう頼んだ。「大事な髪飾りを探して欲しい」

■ キャラクター紹介

天童 翔 19 歳 P L : KAKAO

共鳴感情 表：スリル（欲望） 裏：憧憬（理想） ルーツ：幸福（情念）

スクープクラブ所属の大学一年生。逃げること追いかけることが大好きな鬼ごっこジャンキー。

クラブに入った理由は、勧誘した部長のに運動力をべた褒めされ、流れで入った。夢は逃走中のハンターでテレビ出演すること。

塚森 銀樹 19歳 P L : あるみかん

共鳴感情 表：スリル（欲望） 裏：嫌悪（情念） ルーツ：支配（関係）

スクープクラブ所属の大学一年生。黒上に白髪が混ざっているのが特徴。
直感で動く性格で、くじなど直感ができる遊びが好き。人当たりがよく、人との
仲を縮めるのが得意。
義務や、強制されることに苦手意識をもっている。

彩野 絵理 19歳 P L : いますがり

共鳴感情 表：向上（理想） 裏：不安（情念） ルーツ：愛（関係）

スクープクラブに所属する大学一年生。基本穏やかで平和主義、一人であれば着
物座った行動もできるが、周りに人が居ると流される一面も。
幼少期より絵を描くことに強い興味をもち、小中高校を通して数々のコンクー
ルを受賞している。
一方で絵を描くことばかりを褒められ育ったため、描けなくなることをとても
恐れている。

■ シナリオ作成

ここん、暁、amaohi

『エモクロア TRPG』

企画・制作：ダイス・タスチーム

<https://emoklore.dicetous.com>

G M／えー、それではエモクロアTRPG「春を待つ」開始していこうと思います。よろしくお願ひします。

いますがり・あるみかん・KAKAO／よろしくお願ひします。

G M／では、えー、皆さんの中キャラクターの名前と簡単な自己紹介を……後、プレイヤー一名だね。じゃあ、プレイヤー名、キャラクター名、キャラクター自己紹介の三つをお願いします。

お名前と簡単な自己紹介を……後、プレイヤー名だね。じゃあ、プレイヤー名、キャラクター名、キャラクター自己紹介の三つをお願いします。イニシアチブ順、まあ行動順なので、彩野さんからお願ひします。

いますがり／はい。えー、キャラ名、彩野繪理を演じます、いますがりと申します。

えー、絵理ちゃんは絵が好きな女の子で、特に生まれとかは普通の感じで、とにかく絵が大好きで……後、瞬間記憶能力的な場面をちゃんと覚えられるっていうあの、強いつていふか、凄い能力を持つてる普通の女の子です。以上です。よろしくお願ひします。

あるみかん・KAKAO／お願いします。

G M／はい。じゃあ、次……。

あるみかん／はい。塚森銀樹を演じます、あるみかんです。で、銀樹のあれだよね、銀樹

の性格は直感で動く人間です。くじとか直感で出来るものが好きで、強制とか義務やそれを押し付けてくる人が嫌いなタイプの人間です。お願ひします。

いますがり・KAKAO／お願いします。

G M／はい。じゃあ、最後お願ひします。**KAKAO**／はい。えー、天童翔を演じます、**KAKAO**です。天童翔のキャラ性格は運動バカです。

いますがり・あるみかん／（笑）
KAKAO／とにかく遊ぶこと、走ることが大好きで、一番好きなのは鬼ごっこです。

あるみかん／かわいい（笑）

KAKAO／なんでこの部活、じゃない、スクールクラブ入ったかというと、部長に褒められて、おだてられて、えー、流れで入りました。アホの子です。よろしくお願ひします。

いますがり・あるみかん／お願いします。

G M／はい、では、ということでシナリオ始めて行こうと思ひます。

G M／四限の終わりのチャイムが鳴っています。教室を出る人々は、駅直結のバスが出

るバス停、次の授業の教室、図書室など様々な場所に向かっています。貴方達は今日、自分たちが済ませなくてはいけない課題や用事の為に集まることになつていきました。作業のおともを購入する為に、皆売店に集まるでしょう。到着するのはイニシアチブ順です。ということでロールプレイをお願いします。

彩野 繪理／何を買おつかな？ 折角だしスイーツとか、なんか脳の栄養にでも甘いものが食べたいかもしれない。後は、皆が好きなポテチかな。

塚森 銀樹／一番くじとか売つてないかな？ あと、何買つてこうかな？ つと、軽食と、飲み物買つてくか。

天童 翔／なーに買おつかな？

G M／はい。そんな感じで貴方達は売店に到着します。売店についてです。閉店は十七時三十分。お菓子、弁当、文房具、雑誌などを販売しています。売店は後、十五分程で閉店してしまうようです。どんなものを買いますか？

天童 翔／やつべ！ つて言いながらスピード

ドリヒ……後、惣菜パンを握ってレジに行きます。

彩野 絵理／私は……とりあえずなんか生

チヨコクレープ的な甘いものと、皆が食べそうなポテチを持って買います。

塚森 銀樹／じゃあ、売店なんで一番くじが

ないことに気づいたので、えっと、軽食用のおにぎりと飲み物と後、星形を求めてピノを買つてレジに行きます。

G M／いいですね。えー、貴方達が買い物を終え、外に出るとそれが早いか扉が閉じられます。大体の時間は午後六時頃です。

天童 翔／えつ。

塚森 銀樹／ぎりぎりやんけ。

彩野 絵理／えー。

G M／貴方達は、そうですね、売店の横にあるラウンジとかに移動すると良いんじゃないかな?

彩野 絵理／じやあ、しようがないからここ

でやる?

塚森 銀樹／そうだなあ。

天童 翔／扉開かねえ……。

塚森 銀樹／(笑)

彩野 絵理／(笑)

天童 翔／まあしようがないかあ。

彩野 絵理／そんなにねえ、変わんないもんねえ、そこでやつても。作業できればいいから、とりあえずあそこ行こつか。

塚森 銀樹／そうだな。

天童 翔／それもそつかあ。

天童 翔／はい。ということでラウンジに入ります。生徒たちの憩いの場です。充電スペースやソファが設けられており、先程までいた小さな売店といくつかの自販機が備わっています。大きな窓から夕陽が差し込んでいます。手前は四人用の小さなテーブルがいくつか

置いてあり、奥には三人掛けのソファと低いテーブルがあります。更に奥には充電が可能なカウンター席もあるでしょう。他の人はおらず好きな席を使うことができます。

彩野 絵理／どこの座るつか? ちょっと奥のテーブル、椅子とか低くて使いにくそうだからそこ以外がいいなあ。皆どこがいい?

天童 翔／俺今日の講義でパソコンの充電切れちまつてんだよな。できれば充電できる席がいい。

塚森 銀樹／充電できる席つづうと、あそこ

の左端の席かな?

彩野 絵理／ほんとだ。コンセントある。ん

ー、向かい合つては出来ないけど……いつかあ。とりあえず座ろつか。

天童 翔／悪いね。

彩野 絵理／しようがないからねえ。モバ充持つてこないとね。

塚森 銀樹／いやあ、家に忘れちまつて……ほんますんません。……座ります。

彩野 絵理／えー、席に着き貴方達は自分のパソコンや資料などを机に広げます。どんなことをやりますか?

天童 翔／ああ……、えーっとお……。
塚森 銀樹／ああ……、あの禿げた爺ちゃんのところだ。翔と一緒に行つたんだよな。

天童 翔／禿げたは余計じゃないかな……。

?

塚森 銀樹／悪い悪い（笑）。翔に資料預けたと思つたんだけど、翔持つてるか？

天童 翔／……ちょっと待つてくれよ。今、ちよつと探すからな。て言つてガサゴソと力バンの中をあさります。えーっと、あるかどうか調べたいのでダイス降つてもいいですか？

G M／いいですよ。じゃあ、【強運】でどうぞ。

天童 翔／（ころころ）出目が8、【強運】

の判定値5、成功数0失敗

G M／失敗ですねえ。なんとじやあ、一部あの、資料が欠けてるけど、まあ、あるつちやあるみたいですね。

天童 翔／あつ……たけど量が少ない……。

塚森 銀樹／量が少ない……（笑）

彩野 紵理／ええー、量が……。

天童 翔／ごめん、なんか一部家に忘れてきちまつた。すまん！

彩野 紵理／ええ……だつて今、大学でオカルトブームやつてるのに、これ以上遅れたら皆読む人いなくなっちゃうよ……。

塚森 銀樹／まあ、記憶で補完しつつ作業進めるしかないなあ。

天童 翔／ホント、スマゼン。

彩野 紹理／私行つてないから、二人で頑張つて思い出して。

天童 翔／ああー……！

塚森 銀樹／ああー……預けた俺の責任もある。何かダイスであるかな、振れるの？

G M／まあまあでも、皆で取材に行つたのなら判定を行わざとも思い出すんじゃないですかね。

塚森 銀樹／翔と銀樹の二人で行きました。

G M／失敗ですねえ。なんとじやあ、一部あの、資料が欠けてるけど、まあ、あるつちやあるみたいですね。

天童 翔／あつ……たけど量が少ない……。

塚森 銀樹／よしよし、良かつた。

天童 翔／バカじやないから（ボソッ）

G M／（笑）

彩野 紹理／じやあ、二人が話してくれるので私がまとめるから、とりあえず話して。

塚森 銀樹／はーい。

彩野 紹理／じやあ、二人が話してくれるので私がまとめるから、とりあえず話して。

天童 翔／えー、何だつたつけ？ なんかあそここの爺ちゃんスッゲー嬉しそうに話し

てたよね。人が中々来ないからつて。

塚森 銀樹／そだよな。すつごい盛り上がりよかつたよさげなお菓子を出しても

らつてしまつた。

天童 翔／そうそうそうそう、あれ超美味かつた。

塚森 銀樹／あれ、どこで売つてんだろうな

？

彩野 紹理／超優しいお爺さんじやん。行けばよかつたかなー。でも、あんな山の上まで行つてらんないし。

塚森 銀樹／でも、景色綺麗だつたから、絵とかにもちようど良かつたかも知れない。

天童 翔／あつ！ ちよつと待て、待つてろよ。あつ、スマホにほら夕陽！ ほら、これ写真！ つて言つてスマホに撮つた写真送ります。

塚森 銀樹／おつ、凄い！

彩野 紹理／おおー！

G M／そんな感じであなたたちは談笑しながらお菓子片手に作業をするでしょう。

塚森 銀樹／やべつ、ピノ溶ける！

G M／はい、それでは皆さん、【聞き耳】を振つてください。

塚森 銀樹／はい。

天童 翔・彩野 紵理／はい。

G M／【聞き耳】にレベルがなかつたら【知覚】で振つてください。

彩野 紵理・塚森 銀樹／えつと、どうやつてやるんだつけ？

G M／みんな【聞き耳】で振れるね。みんな【聞き耳】だね。

天童 翔／出目が6、判定値7、成功数1、成功。

塚森 銀樹／はい、送信。出目が2、判定値7、成功数1、成功。あ、すごい。

彩野 紵理／ちよつとお待ちください。

G M／はい大丈夫だよ。オッケーです。

彩野 紵理／出目が9、判定値7、成功数0、失敗。

G M／はい、オッケーです。成功した翔と銀樹ですね。は、小さな声ではあるが、「おい」という声を聞き取ることができます。

塚森 銀樹／あれ、今なんか聞こえなかつたか？

彩野 紵理／ん？

天童 翔／ん？ なんか……。

彩野 紵理／何も聞こえなかつたけど。

塚森 銀樹／え、あれ？ 翔は聞こえたよな？

天童 翔／おう、聞こえた。聞こえた。聞こえた。

塚森 銀樹／幻聴じゃないか。

彩野 紵理／何もしてなかつたよ？

塚森 銀樹／なんか人の声みたいな？

天童 翔／声の聞こえた方をキヨロキヨロ見回しています。

彩野 紵理／誰もいないし。どんな声だった？

G M／はい、では翔と銀樹は【観察眼】を振つてください。

天童 翔／はい。

塚森 銀樹／【観察眼】。出目が7、判定値7、成功数1成功。

天童 翔／【観察眼】……これか。出目が6、判定値7、成功数1成功。

G M／はい、では2人ともその声の持ち主を見つけることができるでしょう。翔と銀樹の

視線は机の少し奥の方に注がれます。そこには体長30センチメートルほどの小さな女の子がいました。袴を身に着けており、栗色の髪飾りをつけています。2人とその少女の視線が合うと少女は嬉しそうに飛び跳ねてこちらへ駆け寄ってきました。

G M／（ハルカ）「私、ハルカと申します。皆さま難しい顔をしていらしたから気になってしまったの」と話しかけてくるでしょう。

塚森 銀樹／お、親指姫！？

天童 翔／妖精がいた！？

彩野 紵理／何？うるさい。ちよつとめつちや良い景色が……。

塚森 銀樹／彩野、彩野！ 机の下、机の下！ 死角になつているところ！

彩野 紵理／ちよつと待つて？ 今すぐく良いくところなの。めつちや良い感じに描けるの！

塚森 銀樹／いやいや。

天童 翔／いいから見ろって見る。

彩野 紵理／絶対虫かなんかでしょ。絶対見つけることができるでしょう。翔と銀樹のない。

塚森 銀樹／でかいでかいでかい。虫よりでかい。

彩野 絵理／やだやだやだ。そんなのやだ。

塚森 銀樹／すごい可愛いぞ、可愛い。

彩野 絵理／え。

天童 翔／可愛い女の子。

彩野 絵理／え。ちらり。

G M／そうですね。そう言われて彩野も机の上に少女がいるのを発見します。

彩野 絵理／誰？

塚森 銀樹／ハル力ちゃんなんだ。

天童 翔／ハル力ちゃんらしい。

彩野 絵理／は、ハル力ちゃん。

天童 翔／今名乗つてたぞ。

塚森 銀樹／はるかちゃん。

彩野 絵理／は、ハル力ちゃん。ちょっと待つて、なんでこんなに小さいの？

天童 翔／それは知らん。

塚森 銀樹／親指姫なんだ。

天童 翔／50センチの親指姫。

塚森 銀樹／（笑）

天童 翔／ちょっと大きいか。

塚森 銀樹／1分の10スケールだ。

彩野 絵理／は、はじめまして？

G M／（ハル力）「はじめまして」と流暢に返してきますね。

彩野 絵理／待つて、待つて待つて。夢？

G M／（ハル力）あら、夢なんて失礼なこと。

彩野 絵理／「ごめんなさい、それはごめんなさい。」

G M／それでは3人のどなたか情報通とか持つてたりしますか？

彩野 絵理／情報通？

塚森 銀樹／情報だつたけな。なんかそれっぽいのは多分。

G M／【事情通】かな？ 【事情通】的なを持てるかな？

天童 翔／【事情通】……。

塚森 銀樹／多分こいつは持つてない。

天童 翔／見たことある気がするぞ。

G M／持つてないかな？

天童 翔／今日は持つてないです。

塚森 銀樹／持つてないな。【事情通】は。

G M／持つてないね

G M／あなたたちが覗き込んだりお互いに

話し合つたりしていると、ハルカがパンと手を叩きます。「あなたたち、少し気分転換をした方がいいわ。わたしと遊びましょう」

彩野 絵理／遊び？

塚森 銀樹／ううん……。

彩野 絵理／何をして？わたしたち、でもまだやることあるし……。

G M／（ハル力）「まあまあ！息抜きですか

ら、ねつ？」

天童 翔／いいよ、何やる？

塚森 銀樹／いいんじやないか。

天童 翔／俺鬼ごっこがいいんだけど！

塚森 銀樹／「」で鬼ごっこはちょっと

人の中では。

G M／「もちろんそんな、時間をとらせたり

はしませんわ」

彩野 絵理／じゃあ……、何します？

G M／「そうねえ。たとえば、じやあ折り紙

なんてどうかしら？」と言つて、あなたたち

が先程まで食べていたお菓子の包み紙をハ

ルカが、うんしようと引つ張つてきま

す。

塚森 銀樹／あら可愛らしい。

G M／彩野から順に、【細工】という技能もしくは、もし【細工】をとつていなければ、【器用】という技能を振つてください。

彩野 紵理／はい。(ころころ)出目が1、【細工】の判定値5、成功数2ダブル。

G M／おおすごい、ダブルなので、すぐきれいに折れたので。

彩野 紵理／おおー。

塚森 銀樹／さすが彩野。

G M／ハルカが、もうめいっぱいの拍手を絵理に送つてくれるでしよう。

彩野 紵理／いやあ一やつぱり、手先は器用だからねえ。

天童 翔／さすがだなあ。

塚森 銀樹／そしたら次は、おれがいいところを……ほつ。(ころころ)出目が3、【細工】の判定値4、成功数1シングル。ま、彩野ほどじやないが、まあまあまあ。

絵彩 野理／きれいな鶴じやない?

塚森 銀樹／マツチヨ鶴だぜ。

彩野 紵理／ちょっと……、脚ついてるの気

持ち悪いけど(笑)

天童 翔／おれはすぐいいと思う(笑)

彩野 紵理／えー……。

塚森 銀樹／やつぱ翔はわかるか。

G M／(ハルカ)「な、ど、どうやつたらこんなの折れるんですか?」と言つて、鶴の脚の下をこう、ぐぐつたりのぞいたりしますね。

塚森 銀樹／今度教えてあげるよ。

彩野 紵理／わたしあいいかな……。

G M／では最後。

塚森 銀樹／今度は折り紙教室だね。

G M／(ハルカ)「ま、まあまあ……あの……あの、じや、じや、じやあ、そしたら、じ

彩野 紵理／やあ、じやんけんなんてどうですか?」と言つてくるでしようね。

天童 翔／ふふ(笑)いっぱい居た方が面白

いのに。(ころころ)出目が7、【細工】の判

定値4、成功数0失敗。あ、やつちやつた(笑)

塚森 銀樹／あつ(笑)

彩野 紵理／あつ(笑)

天童 翔／あつ(笑)

G M／えー……(笑)ハルカが、すぐおく気ま

ずそうな顔をして「じよ、上手に、折れてる

と思ひますわ!」と、言つてくれるでしよう

ね。

天童 翔／なんかすーーいシワクチャの、鶴

モドキができて、自身満々に「どうだ!」つていう顔したけどその反応にショボンてし

ます。

塚森 銀樹／あ、脚が四つあるぞ。すごいな。

彩野 紵理／これは……、人のつくる、モノじや、ないとと思う……。ちょっと、今度教

えて、あげよっか。

塚森 銀樹／そうだな。それがいい。

彩野 紵理／今度は折り紙教室だね。

G M／(ハルカ)「ま、まあまあ……あの……あの、じや、じや、じやあ、そしたら、じ

彩野 紵理／やあ、じやんけんなんてどうですか?」と言つてくるでしようね。

塚森 銀樹／お、いいなあ。

彩野 紵理／じやんけんかー、あまり何かを

決めるとき以外やることないけど……まあ、

いいんじゃない?じやあ、じやんけんしよう

ぜ(笑)

塚森 銀樹／勝つたらおれの軽食一個あげ

るよ。

G M／また同じように彩野から、次は【幸運】、

または【運勢】という技能を振つてください。

彩野 紵理／はい、振りまーす。からからん。

(ころころ)出目が1、【幸運】の判定値6、

成功数2ダブル。

GM／ハルカの出す手が見えたのか、もう何も迷わずにチヨキを出して勝ちましたね。

塚森 銀樹／一人一回ずつ制なし。おれの軽食がなくなつてゆく。

彩野 絵理／これで、これは、わたしのもの。小さくちぎつてあげるね(笑)

GM／(ハルカ)「じゃあ、次はあなたよ」と言つて、銀樹のことを指さします。

塚森 銀樹／よし。じやーんけーん。(ころころ)出目が3、【幸運】の判定値6、成功数1成シングル。

GM／(ハルカ)「まごまごしながらパーを出してなんとか勝てましたね。

塚森 銀樹／勝つた。

彩野 絵理／ほとんど後出しじゃなかつた? 今の。

塚森 銀樹／いや、いやそんなこと、そんなセコいことするわけないだろ。

彩野 絵理／だつて今……。

GM／(ハルカ)「二回も負けちやつた……!」

と言つて、ハルカはショックを受けたようにたたずんでいます。

塚森 銀樹／菓子パンを半分ちぎつて横に

置きますね。ハルカちゃんの。

彩野 絵理／何か申し訳なくなつてきた。

GM／(ハルカ)「悔しい……、最後はあなたね」と言つて天童を指さします。

天童 翔／じや、いくぞお? じやーんけーん……(ころころ)出目が5、【幸運】の判定値4、成功数0失敗。

GM／(ハルカ)「えー、自信満々にグーを出したなんですが、ハルカが堂々とパーを出したので負けてしまいました。

天童 翔／ガーン!

彩野 絵理／ねえさあ、さつきからさあ、ねえ、弱くない?(笑)

塚森 銀樹／鮮やかなオチすぎる。本当に。

彩野 絵理／でも、ようやくハルカちゃんも勝てたね。

GM／(ハルカ)「やつたー!」

塚森 銀樹／ハルカちゃんにピノもあげよう。

GM／(ハルカ)「あ、やーつたあ。コレ何ですか? 大きいですか?」

塚森 銀樹／あ、そうだ。150センチあれば、行けるはず……。

GM／(ハルカ)「て、手が、手がベタベタになつてきましたわ」

彩野 絵理／ちゃんと小さくしてアーンてあげないとかわいそうじやん。

塚森 銀樹／わ、悪かつたよ。

彩野 絵理／男子って甲斐性がないんだから。

塚森 銀樹／いやちょっと、アーンはさすがに、照れる。なんというか。

彩野 絵理／ええ? このちつちやい子にい?

塚森 銀樹／あつ、彩野がやればいいだろう? って言つて、ピノをそのまま渡しますね。

彩野 絵理／じやあ、しようがないなあーつてハルカちゃんに、アーンつてします。ちっちゃくして。

天童 翔／横でものすごくうらやましそうに見ています(笑)

GM／(ハルカ)「アーン」と言つてそれをいただくでしようね。

塚森 銀樹／なんだかちょっと悔しいので、翔に菓子パンを半分アーンします(笑)はい、アーン。

天童 翔／じゃあ、アーン、バクツ。指まで食べます。

塚森 銀樹／あつ、イテツ！……これはダメージ入りますか？

G M／入らないです(笑)そんな感じで、あなたたちがわちゃわちゃしていると、ハルカが満足そうにこちらを見ていますね。「あなたたち、なんだか晴れやかな顔になつたわねえ」

彩野 絵理／そう、かなあ。そーお？

塚森 銀樹／ありがとうございます、ハルカさん。

彩野 絵理／まあそれはね、ハルカちゃんのおかげねー。
G M／ということであなたたちは、意外とね、心なしかすつきりしていることに気づくでしょう。

G M／【知覚】または【五感】を振つてください。

彩野・塚森・天童／はい。

ダイス／出目が8、【知覚】の判定値5、成績数0、失敗。

彩野 絵理／あつ。

塚森 銀樹／じゃつ、次行きます。

ダイス／出目が8、【知覚】の判定値6、成

功数0、失敗。

塚森 銀樹／あれ。

彩野 絵理／あれ。

ダイス／出目が1、【知覚】の判定値6、成功数2、ダブル。

天童 翔／成功するんだな。

彩野・塚森／おお。

塚森 銀樹／最後の最後に。

彩野 絵理／こんなはずじやなかつたのに。

塚森 銀樹／ふふふ。

G M／そうですね。天童は空がだんだん暗くなつてきていることに気が付くでしよう。ふと時計を見ると乗らなければならぬバスの時間が近づいています、そろそろ荷物をまとめないと帰りのバスを逃してしまってしよう。

塚森 銀樹／あつ、二人ともそろそろバスの時間だぞ。

天童 翔／うわつ、えつ、もうそんな時間か。

彩野 絵理／もう？ まだそんなに遊んでないと思つたんだけど……。じやあ帰る？

塚森 銀樹／そうだ、な！

彩野 絵理／でもハルカちゃんはどうする

の？ 私たち帰ろうかと思うんだけど。

G M／あなたがそう話しかけるとハルカは声を上げます。

G M／（ハルカ）「私の簪がないわ！ お母さまからもらつた大切なものののに！」

G M／といつてわたわたと足元を探し始めます。

塚森・天童・簪／

彩野 絵理／簪かあ。

塚森 銀樹／どんな簪だ？

G M／（ハルカ）赤くて、こうガラス玉が付いていて、軸は金色の、これくらいの大きさの……。と一生懸命伝えてくれますがあなたたちに心当たりはありません。

「お願い！ どうしても大切で、見つけないと不安なの！ お願いだから手伝つてくれないかしら。」

塚森 銀樹／まあまあまあ、探すよな

彩野 絵理／そんなに大切なものなら、もしバス逃しても歩いていけばいいもんね。

塚森 銀樹／そうだな。

彩野 絵理／この後特に予定のあるやつがないなら、みんなで探してやろうぜ。

天童 翔／俺はもちろんいいよ。

彩野 納理／ハルカちゃんにも遊んでもらつたし、せつかくだから手伝うよ。

GM／（ハルカ）「あのね、今日は図書館とここしか来てないの、だからそのどこかで落としたのかもしれないわ。」

GM／と話してくれるでしょう。ということであなたたちは探索を始めます。ここで情報の開示が挟れます。探索可能箇所は以下の通りです。外へつながる扉、渡り廊下につながる扉、ラウンジの三つです。

彩野 納理／じやあラウンジの外か中なのね。

塚森 銀樹／とりあえず俺はラウンジを探してみようかな。

彩野 納理／じやあ私は、渡り廊下の扉らへんを探してみようかな。

天童 翔／二人がそこ行くんだつたら俺は扉のほうで。

GM／はい、では彩野から処理をします。渡り廊下かな？

彩野 納理／はい。

GM／渡り廊下へつながる廊下、図書館へつ

ながる渡り廊下です。手をかけると簡単に開くことができるでしょう。図書館側の扉は薄く開いており、微かに冷たい空気が届いている。おそらく冷房のおかげでしょう。

彩野 納理／おお。

GM／とりあえず描写だけ済ませちゃいます。ラウンジ、銀樹だね。

塚森 銀樹／はい。

GM／今いる部屋です。窓から見える景色はいつの間にか紺色に染まっているでしょう。日は落ちてしまつたはずなのに、だんだんと蒸し暑くなってきた。長居するのは得策ではないだろう。銀樹は何かしますか？

塚森 銀樹／後で【観察眼】振りますね。

GM／じやあ今やつちやいますか。【観察眼】振ってください。

塚森 銀樹／はーい。

ダイス／出目が2、【観察眼】の判定値7、成功数1、成功。

塚森 銀樹／成功ですね。赤くて金色の……簪、簪……。

GM／あなたがそう歩き回っていると、クシヤつと何かを踏んだことに気が付きます。

GM／失敗ですね。あなたは特に何も感じず、扉があかない！ と気づきますね。

塚森 銀樹／あれつ。

GM／セピア色の紙切れのようです。
塚森 銀樹／なんだこれ。かがんで拾い上げます。

GM／

無造作にちぎられていて形が歪です。読むと日記の一部のようです。『学ぶとは何かわからなくなってきた。私の目指すべき場所はどこだろう。』と書かれています。

塚森 銀樹／今日の落とした資料かと思ったがこれは違うな。あとでハルカさんに聞いてみるか……。

GM／では天童。扉の鍵は開いておらず押しても引いてもびくともしません。よくみると本来あるはずのカギ穴が消失しているようです。ここで天童に【共鳴判定】です。

天童 翔／よしきた。

GM／【共鳴判定∞】。強度2上昇1。共鳴感情、嫉妬、情念です

ダイス／出目が6、【共鳴判定∞】の判定値2、成功数0、失敗。

天童 翔／おおー。

天童 翔／押しても引いても効かないんだ
つたら横はどうだ！　だめだ。

G M／びくともしないです。

塚森 銀樹／なんか向こう側ガタガタ言つ
てるな……。

彩野 絵理／……うるさいな。

G M／彩野のところに戻ります。彩野が扉に
少しだけ手をかけると、開いた隙間から何か
が飛び出します。

G M／（ハルカ）「あたし向こうが気になる
わ！　ちょっと行ってくる」といつてハルカ
が飛び出して行つてしまふでしよう。

一

彩野 絵理／え！　ちょっとまつて！
人は危ないよ！　とついていきます。

G M／ハルカは足が速いのと小さいのとで、

姿が見えなくなつてしましました。

彩野 絵理／えー。ちょっと二人を呼んで来
よう。

彩野 絵理／塚森くん！　天童くん！　ち
よつと来て！

塚森 銀樹／どうしたんだ彩野、大丈夫か？
なんか悲鳴つぽいのが聞こえたので行きま
す。

天童 翔／なんかあつた？

彩野 絵理／突然ハルカちゃんがあつちの
ほうに飛んで行つちやつて。

塚森 銀樹／あぶな！

彩野 絵理／あんなに小さいから私ひとり
じや探せないし……。

塚森 銀樹／それもそうだな。

彩野 絵理／とりあえず図書館

塚森 銀樹／さつきの部屋も暑くなつてき
てたし、こつち涼しそうだから。

たい。

G M／それでは。中に入ると、冷房の風があ
なたたちを出迎えます。司書や生徒の姿は見
えず、ハルカも見当たりません。

彩野 絵理／誰もいない……。

塚森 銀樹／すずしい。

天童 翔／まあ、こんな時間に利用してい
る人いないよな。

彩野 絵理／でも、エアコンつけっぱだし、

誰かいると思つたんだけどなあ。だからハル
カちゃんが行つちやつたら危ないがあつて
思つたの。

塚森 銀樹／確かに見つかつたら騒ぎには
なるな、あれ。

彩野 絵理／でしょ？　ハルカちゃん、探せ
ないですか？

塚森 銀樹／静かだからいけると思つたの
に。

彩野 絵理／あなたたちは、探索可能な箇所が4つ
あります。カウンター。壁際の本棚。新聞・
雑誌コーナー。自習室です。

塚森 銀樹／じゃあ、私ちよつとカウンター
のほうを見てこようかな。

彩野 絵理／じやあ、俺自習室かな。

塚森 銀樹／じゃ、新聞・雑誌コーナーにち
よつと行つてきます。

G M／はい、じや順番にやつていきましょ
かね。カウンターです。本の貸出、返却を行
つているカウンターがあります。特に技能を
使わざとも、カウンターの上に手帳が置かれ
ていることに気が付くでしよう。

彩野 納理／何？ この手帳。どう見ての司書さんとかのお仕事道具じやないよね……。

中、なにが書いてあるだろう？ ペラ。

G M／いいですねえ。はい、ええと。いたつて普通の手帳ではありますが、表紙の素材は革で、緑色をしています。リボンのようなもので縛られており、万年筆も結ばれている。裏面には「I-A 櫻木」と書かれています。

少しかび臭いです。いたつて普通の手帳画はあるが、中の紙は乾いてセピア色になつてい

る。何度か書かれページが破かれているよう

で、厚みがあまりありません。表紙を開くと、「5月3日。図書館で小説を2冊借りた。す

ぐに読み切つてしまいそุดから、もう少し借りればよかつたかもしれない。家に帰ると、お母さまが簪をくれた。赤くて艶々した硝子玉が美しい」と書かれています。日記のよう

です。

彩野 納理／なんでこんなところに、こんな

古い日記があるんだろう。しかもページもな
いし、高そうな万年筆ついているし。落とし物かなあ。あと……ん？ この、簪……ハルカ

ちゃんも同じもの探してたような……。とり

あえず、他の、塚森君とかにも聞いてみよつと。

G M／はい、ということでじゃあ、次は塚森

です。はい。数多の雑誌と新聞が置かれて
います。何か、やりたいことはありますか？

塚森 銀樹／ハルカさーん、と呼びかけなが

ら技能で何か、【観察眼】かな？

G M／うん、いいですね、じゃあ振つてみま

しよう。

塚森 銀樹／振りまーす。ハルカさーん。お

おう……。

ダイス／出目が1、【観察眼】の判定値が6、
成功数マイナス1、ファンブル。

G M／ファンブル、ですねえ。

彩野 納理／まさかの。

塚森 銀樹／こんなところで……。

G M／特に何も見つけられないどころか、ち
ょっと不注意で雑誌の棚に足をガシッとぶ
つけてしまうかもしれないですね。

彩野 納理／ファンブル(笑)

G M／ええ、では、あなたは特に何も見つけ
ることができず、そうですね、椅子の足に足
を引っかけてつんのめつてしましますね。ガ
タガタつと大きな音がするでしょう。

天童 翔／奥のほうから、同じように悶絶し
てる声が聞こえるかな。同タイミングくらい

G M／入ります。

塚森 銀樹／じやあちよつと、足の小指ぶつ

けて悶絶しておきます。うわあ、ああ！ハル
力さん……！

G M／じやあ、ええと、自習室行きますかね。

天童 翔／はーい。

G M／はい。大きな窓から、夕日が差し込んでいます。いくつかのテーブルと椅子が備えられた自習室です。ここにも、生徒やハル力の姿はないようです。

天童 翔／うーん、いかあ。【観察眼】

で一応、何かないか見ます。

G M／はい、じゃあ、どうぞ。振つてみてください。

ダイス／出目が1、観察眼の判定値が10、成
功数マイナス1、ファンブル。

G M／ファンブル、ですねえ。

彩野 納理／ファンブル(笑)

G M／ええ、では、あなたは特に何も見つけ
ことができず、そうですね、椅子の足に足
を引っかけてつんのめつてしましますね。ガ
タガタつと大きな音がするでしょう。

天童 翔／奥のほうから、同じように悶絶し
てる声が聞こえるかな。同タイミングくらい

G M／入ります。

塚森 銀樹／じやあちよつと、足の小指ぶつ

彩野 絵理／騒がしいなあ。

塚森 銀樹／ハルカさん……！

天童 翔／ダメージ入りますか？

G M／入りません。

天童 翔／やつたー！

G M／では一周したので、自分が今いた場所なければ、再度、探索することができます。

彩野 絵理／ええと、じやあ。壁際の本棚……ああ違う。最初に様子を見に行くといふことで、新聞・雑誌コーナーに絵理ちゃんは行きたいと思います。

塚森 銀樹／銀樹は悶絶まだしますね。

G M／はい。

彩野 絵理／ちよ、ちよつと、塚森君。

塚森 銀樹／ハルカさん……！

彩野 絵理／大丈夫？とりあえずさあ、本読むスペース能所に座つてたら？……は私が見てみるから。

塚森 銀樹／すまない。ちよつと、頼んだ。彩野 絵理／ていうか、さつき奥のほうの自習室でもすゞい音がしてたから、もし余裕があつたら翔君のことも見てきておいて？

塚森 銀樹／心配だなあ。心配なのでちよつ

と、銀樹えっと、自習室かな？ 行きます。

G M／はい、じやあまず、絵理からかな。

彩野 絵理／私も観【察眼】を。ハルカちゃんを探しながら【観察眼】を振りたいと思いまます。

G M／はい、どうぞ。

彩野 絵理／ダイス、ロ——ール！ 出目が2、2、2、【観察眼】の判定値8、成功数3、トリップル。

G M／ええ、では、では。

彩野 絵理／ハルカちやーん。 Where are you going?

G M／えー。……ものを見つける」とができます。丸められた紙と紙切れのようです。

まず、丸められた紙。それは賞状のようでした。内容は次の通りです。「櫻木遥殿。貴殿は本校で学業に精励し、極めて優秀な成績を修めたとしてこれを称する。……年度 2月

19日」端のほうは切り取られています。次に、紙切れですね。「2月10日。今度、みんなの前で発表されるよう。そんなの求めていない。私は私の生きる道が欲しい。家族にも、学校にも縛られず、やりたいことに進みたい

と書かれています。

彩野 絵理／ハルカちゃんは見つからないし簪も見つからないのに、なんか、紙ばっかり手に入る。これは……賞状？ 櫻木、遥。あ、

ちょうど探し人と同じ名前だ。で、こっちは？ 手帳……かな？あれ？ もうきのやつと同じかな？ 今度、みんなの前で発表……うーん、とりあえず、持つておこう。塚森君、大丈夫かなあ。

G M／はい、では、塚森たちに移ります。
塚森 銀樹／優しいなあ、すゞい心配してくれてる。

G M／塚森が自習室に入ると、
塚森 銀樹／翔、無事か？

G M／目の前にうずくまつている翔がいるでしょう。

塚森 銀樹／翔、おまえなんて姿で……！

天童 翔／ううう(涙目)
塚森 銀樹／自分と同じことをしたのかと察して、熱く抱擁をします。

塚森 銀樹／翔！ 無事か！
G M／えー、塚森が自習室に入ると、目の前

にうずくまつてゐる翔がいるでしよう。

塚森 銀樹／翔、お前、なんて姿で……。

天童 翔／銀樹（涙目）

塚森 銀樹／自分と同じようなことを経験したのかと察して厚く抱擁します。

天童 翔／ごめんなあ、いやー、ハルカさんを見つけようとしたんだけどよー、いやー、ちよつとつんのめつて……盛大にこけた（笑）

塚森 銀樹／大丈夫だ。俺もさつきそこで小指をぶつけた。

天童 翔／……俺ら似た者同士だな。

塚森 銀樹／そうだな（笑）ってことで翔の代わりにここでちよつと、【観察眼】を振ります。

G M／はい、えつとじやあ、翔は何かしますか？

天童 翔／うーん、じやあ、お邪魔虫のようなので、壁際の本棚の壁際に寄ります。

G M／はい、では塚森からですね。メインで降つてね。

塚森 銀樹／探そうとしたことは、まだ見つけられてない、特に何もまだ見られてないつことだよな。えーっと、ハルカさーん

（ころころ）出目が8、【観察眼】の判定値7、成功数0失敗……特に何もないつと。

G M／えー、貴方はこう、探し回つてみましたが、特にハルカの姿は見受けられないようです。

塚森 銀樹／よし、特に何もないな。

G M／では、じやあ、天童かな。

天童 翔／はい。

G M／はい、えーと……壁際の本棚です。小説や新書と呼ばれるような類の本が置かれています。何かしますか？

天童 翔／……よし、今度こそ！　と言つて【観察眼】をもつかい振りります。

G M／はい。

天童 翔／（ころころ）出目が2、判定値7、成功数1成功。

G M／いいですねえ。

塚森 銀樹／仲間じや、仲間じやないの……。

G M／えー、それでは貴方は一冊の古びた本が本棚から飛び出していることに気づくでしょう。

天童 翔／おつ、なんだこれ。……手に取つて読みます。

G M／はい。背表紙には『女生徒』と書かれています。その本から何かが飛び出ているようです。取り出してみると、綺麗に折りたたまれた手紙のようです。（手紙の内容）「知つてる？」この大学の七不思議。夜、この図書館に来ると黒いお化けに追いかけられるんだって。カエセ、ユルサナイって言って来るらしいよ」と書かれています。

天童 翔／大学に七不思議なんてあるんだ……。お化けと追いかけっこ……ちよつと面白そうだな。その手紙を一応持つておきます。

G M／はい。では一通り探索は終わりましたが、他にやりたいこととかありますか？
塚森 銀樹／自習室……。
彩野 紵理／うーん……。とりあえず彩野ちゃんが自習室に行こうかな。

塚森 銀樹／仲間じや、仲間じやないの……。
彩野 索理／うん、ごめんね、探せてない。
（二人の様子を見に行くつてことで。）
G M／他二人はどうしますか？

塚森 銀樹／えーと、多分塚森は本当に何

もないと思ったので、えー、図書室に一回戻
ろうとして多分彩野ちゃんと出くわすかな
くらいですね。

GM／いいですね。

塚森 銀樹／あつ、彩野つて。

天童 翔／……俺は……もう見たいとこ無
いけど、ハルカさんは探ししたいので、図書館
全体に【聞き耳】を振りたいです。何か音が
ないか。

GM／はい。じゃあ、そんな感じで行きます
かね。まず、彩野から行きましょう。

彩野 絵理／ああー、あれつ、塚森くん。天
童くんは？

塚森 銀樹／えーっと、天童なら、まあ、つ
んのめつてこけてはいたけど、大丈夫そうだ
つたからそっちの方面行つたぞ。会わなかつ
たか？

彩野 絵理／会つてないし、なんで二人共そ
んなにどんくさいの？

塚森 銀樹／ど、どんくさいって……。結構
傷つく……。

彩野 絵理／なんか見つかった？

塚森 銀樹／いや、特に何も見つけれなかつ

たけど。多分何もないよ。

彩野 絵理／いや、信じない。

塚森 銀樹／何もない（笑）

彩野 絵理／あんな、だつて、あれだよ。新
聞かけるところに小指ぶつけてうずくまつ
てる人の言葉なんて全然信用ならないから。

塚森 銀樹／ウツ！

彩野 絵理／私がもっかい見とくからちよ
つと待つてて。

塚森 銀樹／お願ひします。彩野さん。端つ
この方で待機してます。

彩野 絵理／じゃあ、【観察眼】を振ります。

GM／はい。いいですよ。

彩野 絵理／ハルカちやーん？（ころこ
ろ）出目が10・4・3で判定値が8、成功
数1の成功。

GM／いいですね。

天童 翔／流石です。

塚森 銀樹／おつ、さすが。

GM／えー、それでは貴方は机の下に何か光
るものがあることに気づくでしよう。

彩野 絵理／やつぱりなんかあるじやん。

塚森 銀樹／えつ、嘘だろ。
つ？

彩野 絵理／ほらほら、見て。なんか光つて
るよ。

塚森 銀樹／彩野の方に近づいていきます。

GM／手に取つて見ますか？

彩野 絵理／はい。取つて見ます。

彩野 絵理／えー、それは簪でした。赤いガ
ラス玉がついた簪です。高価なものには見受
けられないでしよう。

彩野 絵理／あつ、これつてあれじやない
？ ハルカちやんが探していた簪じやない
？

塚森 銀樹／特徴が一致してるな。肝心のハ
ルカさんはまだ見つかってないわけだが。

彩野 絵理／そうなんだよねえ。折角見つけ
たから渡したいんだけど……。

GM／そうだな。じゃあ、えー、彩野は【五
感】か【視力】、高い方を振つていいですよ。

彩野 絵理／はい。【五感】か【視力】、えー
つと。

GM／【五感】か【視力】のどつちか。

彩野 絵理／【五感】のどれですか？ あれ
つ？

G M / あつ、【五感】そのものを。

彩野 絵理 / 【五感】そのもの、あつ、はい。

えーっと。これでいいのかな？ (ころこ) ろ) 出目が 4・1・5 で判定値 8、成功数

4 ミラクル。

G M / おおー、凄い！

塚森 銀樹 / おおー！

天童 翔 / スゲエー！

彩野 絵理 / ミラクル (笑)

G M / えー、それでは、この簪はとても古く所々にさびや劣化が見られることが分かります。

彩野 絵理 / にしてもその簪ずいぶん古いね。ほら見て。

塚森 銀樹 / どれどれ？

彩野 絵理 / ほらこことか鋸びちやつてるし。(こ) こも塗装が剥げちゃってる。折角綺麗なのに……。

塚森 銀樹 / 本当だ。

彩野 絵理 / これをつけるのかな？

塚森 銀樹 / 確かに大事なものって言つてたけど……あつ、でもお母さんから貰つたつ

つてたから意外に古いものなのかも？

彩野 絵理 / ああ……。形見とか？

塚森 銀樹 / なのかも……。

彩野 絵理 / とりあえず、ハルカちゃんが見つかないとどうにもなんないね。

塚森 銀樹 / そもそもうだな……。

彩野 絵理 / もつかい呼んでみてよ。おつき

い声で。

塚森 銀樹 / スウ、ハルカさーん！

G M / ……特に何の返答も得られないですね。

彩野 絵理 / だめだねえ……。

塚森 銀樹 / なんか塚森、良いとこ無しなんで、技能なんか降つてもいいですか？

G M / いいですよ。

彩野 絵理 / にしてもその簪ずいぶん古いね。ほら見て。

塚森 銀樹 / なんか振れる技能ありますか

? (笑)

G M / 何振りたい？

天童 翔 / なんか、【直感】で振つて、何

となくヒントか何か得られれば。

G M / いいですよ。やってみましよう。

塚森 銀樹 / メインで…… (ころころ) 出目

が 3 で判定値 5、成功数 1 成功。

彩野 絵理 / おおー！

天童 翔 / 良かつた。

G M / おお (笑)

彩野 絵理 / ようやく成功 (笑)

塚森 銀樹 / やつと成功 (笑)

彩野 絵理 / やつとね (笑)

塚森 銀樹 / やつと1だよ (笑)

G M / えー、そうですね。まあ、この簪すごく古いけど、やっぱりハルカが探していたそのものなんだろう、返してあげなくちゃ！

と直感的に閃くでしょうね。

彩野 絵理 / (笑)

塚森 銀樹 / 成功 1 だからなにもこれ以上情報がないな……。

塚森 銀樹 / はい。じゃあ、天童に行きましょうかね。

G M / はい。じやあ、天童に行きましょうかね。

天童 翔 / はい。

G M / 天童は、では、【聞き耳】かな？

天童 翔 / はい。図書館全体に、物音のする

方を確認します。

G M / はい。どうぞ。

ダイス / 出目が 2、【聞き耳】の判定値 7、

成功数 1、成功。

G M / いいですねえ。

彩野・塚森／おお。

G M／あなたが耳をすませたその瞬間、突如、ドン、と壁を叩くような音がしました。

塚森 銀樹／おつ。

G M／それは、三人皆さんに聞こえてきました。

塚森 銀樹／なんだ、今の音？

彩野 絵理／なんか今、音しなかつた？

塚森 銀樹／聞こえたよな？

彩野 絵理／ちよつと、天童君と合流します。

塚森 銀樹／合流します。心配なんで。

彩野 絵理／天童くーん！

塚森 銀樹／翔、大丈夫か!! 転んだか!!

彩野 絵理／また転んだでしょ！

天童 翔／いや、特には……。変な手紙は見つけたけどよお。いやそ れよりさ、今なんか変な音しなかつた？

彩野 絵理／えつ。だから、それが天童君が転んだ音かと思つたんだけど……。

塚森 銀樹／お前が転んだわけじやないのか。

天童 翔／俺、そんな大きな音立てて転んでねえよ。

彩野 絵理／いや、さつき立ててたし……。

塚森 銀樹／（笑）

天童 翔／あれ？

G M／二人が外に出てみても、何かが倒れた様子はありません。そして、話している間にまた、ドン、と音がしました。

塚森 銀樹／うわっ。

G M／天童は気づくことでしょう。その音の在り処が、自習室の横、書庫から鳴っている、

といふことに。そして、その音は止むことがなく、一定の間隔で鳴り続けています。

彩野 絵理／何だつたんだろうねえ。

天童 翔／書庫から音がするのか？

塚森 銀樹／まだ、音鳴ってる……。どつからしてるんだろうな、この音……。

天童 翔／書庫からだよ。自習室の隣の。

塚森 銀樹／書庫？

天童 翔／もしかしたらさ、ハルカさんが閉じ込められてるとかないか？

彩野 絵理／ハルカちゃん？ そしたら大変だよ！ 早く行つて助けてあげないと！

塚森 銀樹／じやあ、全員で行くか。

彩野 絵理／これつてやっぱり、さつきから

一行は書庫へ向かつた。

G M／あなたたちは、書庫の前にたどり着きます。技能はいらないかな。あなたたちが書庫の前に着くと、目の前に、セピア色の紙切れが落ちていることに気づくでしょう。

塚森 銀樹／あれ、これさつきの……。

彩野 絵理／それ私も拾つたよ？

天童 翔／なになに？

塚森 銀樹／あれ？

彩野 絵理／どれ、なんか書いてある？

塚森 銀樹／えーっとどれどれ……。

天童 翔／何も知らない僕は……。

塚森 銀樹／（笑）。塚森が拾い上げて、ちよつと見ます。

G M／紙切れには、こう書かれています。「簪がない。お母様に怒られる。お母様に。お父様にも。怒られてしまう。せつかく説得できていたのに。怒られてしまう。怒られてしまふ。お母さんに」と、書かれています。

塚森 銀樹／簪？

彩野 絵理／これつてやっぱり、さつきから

薄々思つてたんだけど、これってさ、ハルカちゃんのだよね？

塚森 銀樹／そうなのか？

天童 翔／えつ、何それ俺知らない……。

塚森 銀樹／（笑）

彩野 絵理／私さつきね、手帳を見つけたの。

塚森・天童／ほう。

彩野 絵理／そこにも色々書いてあつて……。

…。裏の名前に、「二年のA、櫻木」って書いてあつたの。それで、その前に見つけた、

あつ、その次に見つけた紙、なんか賞状みたいなのも拾つたんだけど、そこに「櫻木 遥」って書いてあつたの。だから、やっぱりそれで、ハルカちゃんのなんじやないかな……。

…？

塚森 銀樹／俺はそんな……。

天童 翔／それってさあ……あつ、ごめん。

塚森 銀樹／いや、大丈夫です。——俺はそんな……。

天童 翔／いや……。

塚森 銀樹／あつはい。

天童 翔／……譲ります！

塚森 銀樹／はい！

彩野 絵理／（笑）

塚森 銀樹／俺は、賞状なんてデカいものを見逃していたのか……。

彩野 絵理／それは……そうだね。……でも、どうしよう。とりあえず書庫に行かないと。

ハルカちゃん見つからないし……。

塚森 銀樹／でも、これハルカさんだとしたら……。

天童 翔／なあ、ちょっと気になつたんだけどよお。

彩野 絵理／うん。

天童 翔／二人が見つけたのって、俺たちが見れるくらいのサイズのやつ？

塚森 銀樹／おお。

彩野 絵理／ああ。そうだね。

天童 翔／でもハルカさんってさあ、親指でしょ？ 親指姫でしょ？

彩野 絵理／ああ。

塚森 銀樹／そうだな。一分の十スケール親指姫……。

天童 翔／いや……。

塚森 銀樹／あつはい。

天童 翔／……譲ります！

塚森 銀樹／はい！

間？

塚森 銀樹／それと、俺少し思つたんだけど、簪がないって気づいたのさつきだよな？

これいつ書いたやつだ？

彩野 絵理／えつ、と、とりあえず、書庫行つてみない？

塚森 銀樹／そうだな……。

彩野 絵理／ここであれこれ考えてたって、分かんないよ……。ということで、書庫の扉を、ガチヤつと、開けます。

塚森 銀樹／できれば、塚森が前に出て開けます。メンズなんで。

彩野 絵理／お、かつこいい。

GM／では、あなたたちは、書庫に足を踏み入れます。

GM／えく……、共鳴者……あなた達が書庫の扉を開けると暗闇の中に、何かが蠢いていました。その体は闇に溶け込むように黒く、ヘドロのような見た目をしています。身体の

様々な位置に口があり、それぞれが「うう……」「悔しい……」「悲しい……」「苦しい……」と、唸り続けているようです。【共鳴】判定が発生いたします。

共鳴判定強度4、上昇3。共鳴感情は【劣等感（傷）】です。

塚森 銀樹／なんだ、あれ。

彩野 絵理／なに？ あれ？

天童 翔／うわっ、気持ち悪つ。

塚森 銀樹・彩野 絵理／（笑）

GM／えー、では、持つている感情に【劣等感（傷）】がある方はいますか？

塚森 銀樹／……ない。

天童 翔／ないです。

彩野 絵理／持つてないです。

GM／じゃあ、全員一番上にある通常のやつですねえ。少々、お待ちください。

彩野 絵理・塚森 銀樹・天童 翔

／はい。

GM／はい。では、判定をお願いします。

彩野 絵理／共鳴！ 出目2、【共鳴】の判定値4、成功数1成功。

彩野 絵理／成功！

塚森 銀樹／じゃあ、振るか。共鳴！出目5、↓4。

【共鳴】の判定値4、成功数0失敗。

塚森 銀樹／失敗！

彩野 絵理／ああ……！

天童 翔／ダイスロール！ 出目10、【共鳴】の判定値4、成功数1ファンブル。

天童 翔／ファンブル！

塚森 銀樹／うわっ、ファンブル！？

GM／……えー実は、【共鳴判定】は成功しては、いけないんですね。

彩野 絵理／えつ。

塚森 銀樹／お。

GM／というわけで……えつと……。

彩野 絵理／あー、はい！

天童 翔／あー、やつぱりか。俺、バカだからわかるねえ。

塚森 銀樹／さつきの反応の通りに……。

GM／では、彩野は共鳴レベルが4、えーあつ、3ですね。3上昇します。

彩野 絵理／さん！ ……3！？ はい。

塚森 銀樹／あつ、でかい。

共鳴レベル変動／彩野 絵理・共鳴レベル1

……！

彩野 絵理／と、とりあえず……逃げないと

塚森 銀樹／翔。彩野連れて外出れるか？

つて掛け合つてみます。

天童 翔／わかつた、任せろ！

塚森 銀樹／塚森……【技能】でなんか、斯くまでしてきたこと。それが何か、後悔に繋がつているような。そんな苦しさを覚えて、少し顔を歪めることでしよう。

彩野 絵理／ううつ……なに、これ……？ 塚森 銀樹／大丈夫か？ 彩野、どうした？

天童 翔／どうした?! 彩野？

彩野 絵理／と、とりあえず……逃げないと。

GM／えー、怪異は……。

天童 翔／天童は怪物の方を見てます。ずっと。

彩野 絵理／と、とりあえず……逃げないと。

GM／「許さない」「羨ましい」「私は？」「返して」「悔しい」「助けて……」などと言ひながら、まだ蠢いているでしょう。

彩野 絵理／と、とりあえず……逃げないと

ピード？とかで、怪物が綾野のところにたどり着くより前に、その2人の間に割つて入れるか振つてもいいですか？

G M／あつ、そういうことはせずとも、書庫の外には出られるでしょうね。

塚森 銀樹／お、よかったです。じゃあ。

G M／はい。

塚森 銀樹／ダッダッダッダ。

彩野 紋理／逃げます。

塚森 銀樹／逃げます……扉を閉めます。

彩野 紋理／逃げます……扉を閉めます。

G M／はい。あなた達が書庫の扉を閉めると、また、ドンドンと、壁を叩く音だけが聞こえるようになります。

彩野 紋理／つ……。

天童 翔／何だつたんだ今の……。

天童 翔／てんどーは、本棚の本とか持つてきいて、扉の前塞ぐかな……気休めだけど。

塚森 銀樹／じやあ、綾野の様子を塚森は見ます。大丈夫か？ 彩野？

彩野 紋理／彩野は、ダウン、中です。

天童 翔／えつき、ほいさ。

塚森 銀樹／ん。

彩野 紋理／さつきの何だったんだろう…

…？

塚森 銀樹／そうだなあ……、少なくとも、ハルカさん……では、なかつた、からな……。

彩野 紋理／うう、この紙にこんな、ハルカさんが心配だな。

天童 翔／お化けじやねえの？

塚森 銀樹／え。

彩野 紋理／おばけ？

天童 翔／さつきさ、こんなやつ見つけてさ

ーって言って、手紙の方、ペラペラしながら見せます。

G M／いいですよ。

塚森 銀樹／彩野を支えながら、覗き込みます。

天童 翔／七不思議とか書いてあるから…

天童 翔／別に、噂話かなあつて、思つてた

彩野 紋理／何でそんなに冷静なの……？

天童 翔／バカだから！

塚森 銀樹／（笑）

彩野 紋理／でも、このままここにいたらま

ずいよね。

塚森 銀樹／そうだなあ。

彩野 紋理／でも、ハルカちゃんも心配だし

それっぽい情報が書かれてることは、図書室以外には出てこないつことなのかな？

彩野 紋理／だから、このまま帰れば逃げれる、とは思う？ けど、やっぱ、ハルカさん心配だよね。

塚森 銀樹／それに、……あの怪物、返せつ

て言つてた。

彩野 紋理／返せ……。

塚森 銀樹／返せ……。

彩野 紋理／返せつて、何を？ じゃあこ

の返せを知るために直感とか触れますか？

塚森 銀樹／あ、そうだ……【直感】！

G M／そう、ですねえ……。そしたら……う

ーん、塚森、かな。

彩野 紋理／銀樹／はーい。

天童 翔／えーっと、【洞察】を、振つてください

い。

塚森 銀樹／どうきつ、はーい。

天童 翔／失敗すんなよー。

塚森 銀樹／そうだな。いいとこ見せてやる。
……ほい！ 出目5 洞察の判定値3成功
数0失敗。

塚森 銀樹／うつ。

彩野 絵理／ああ……！

塚森 銀樹／ううつ。

GM／失敗ですね……。

塚森 銀樹／じやあ、唸ってますね……如何
したものかと。

GM／じやあ、えっと、彩野、天童の順で同
じように洞察を振ってください。

彩野 絵理／はい！

天童 翔／はい！

彩野 絵理／どうさつー。

GM／持つてなかつたら、えー、持つていな
ければ、そうだな。【直感】または【知力】
でいいですよ。

彩野 絵理／はい！ ジやあ直感振ります。
GM／はい。

彩野 絵理／【直感】を。出目9 直感の判
定値7 成功数0失敗。

天童 翔／ああつ。

彩野 絵理／あ、失敗。

天童 翔／じやあ、俺も直感振ります。ダイ
スロール！ 出目5、7 直感の判定値7
成功数2 成功（ダブル）。

GM／お！ いいですねえ……。

彩野 絵理／カツコイイ！

GM／ダブルだから……。

塚森 銀樹／カツコイイよ！ 格好いい

ぞ！

GM／ダブルだから……、じやあ、情報を開
示します。

天童 翔／わーい。

塚森 銀樹／俺、いいとこない。

GM／あなたは、今までの……今まで、えー、

手に入ってきた手記やハルカとの会話、そし
てあるお化けの噂、そのお化けそのもの、そ
れらを加味して、あるお化けに簪を手渡せば
何か変わるものではないかと直感的にひらめ
くでしょう。

彩野 絵理／そうだね、じやあ天童はハルカが簪の
話をしていたな……というので聞いたこと
にしますか。

塚森 銀樹／返すって、一体何を？

天童 翔／うーん。

彩野 絵理／ん？

天童 翔／じやあ、ピーンって頭に電球乗っ
けたような顔して、ハルカの、ハルカじやね
えわ。彩野の方バツ！ つていつて、それ！
つて……、待つて、待つて。そうだ！ こい
つ簪、見つけたの知つて……、知らねえ！

塚森 銀樹／あつ、そうだ……簪……。

天童 翔／伝えた？ 彩野が持つてるつて。

彩野 絵理／言つてない！

塚森 銀樹／言つてない……。

彩野 絵理／とりあえず……じやあ、私たち
の持つてるもの。出してみる？

塚森 銀樹／そうだな。何か情報があるかも
知れないしな。って言つて、全部出します。
紙を、「一枚だけど……！」ペラ。

天童 翔／俺もこの手紙を。

彩野 絵理／私は、手帳と、この賞状と、紙
きれを。

GM／そうだね、じやあ天童はハルカが簪の
話をしていたな……というので聞いたこと
にしますか。

天童 翔／ピカーン！ それ！ つて言つて指さして、俺の勘が言つてる、多分その簪を返せばいいんじやないか？

彩野 絵理／……つ。

天童 翔／勘だけど。

塚森 銀樹／これ、ハルカさんのじやあ…

…？

彩野 絵理／そうだよ何言つてるの？

天童 翔／いやさ、おかしいなとはずつと思つてたんだけどさ、図書館から……、待つて、考へる……。

彩野 絵理／……図書館から？

天童 翔／ハルカさんの気配が全くしねえんだよ。

塚森 銀樹／……確かに、探してて音1つもしなかつたよな。

彩野 絵理／なに？ 図書館からハルカちやんが消えたのと引き換えにあれが現れたから、あれがハルカちゃんとだとでも言いたい？

天童 翔／んー、……こう、論理建て説明するとか、俺には無理だから……、なんというか！ ほんとつーに、直感でしかねえ！

塚森 銀樹／……まあ。

天童 翔／でも、それを信じるかどうかは2人に、任せる。

塚森 銀樹／うーん……。

彩野 絵理／どうする？

塚森 銀樹／まあでも……、手帳のサイズとか、その、古びた簪とか、手帳書いたタイミングとか、不可解なことは沢山あるんだよな。

彩野 絵理／あれを渡せば、解決するかな…。じゃあ分かった、やろう。

塚森 銀樹／……だな！

天童 翔／おう！

彩野 絵理／でも、どうやつて渡す？ あいつに会つたら、すぐ絶対、追いかけられちゃうよ。

塚森 銀樹／とりあえず、さつき体調が悪くなつた彩野は行かない方がいいかもな。

彩野 絵理／2人だけで大丈夫？

天童 翔／……簪は俺が持つよ。

塚森 銀樹／いや、俺が持つ……。

天童 翔／俺が言い、だした。

彩野 絵理・塚森 銀樹／（笑） 今の

ところ無いっ！

天童 翔／（笑） 本音が漏れてるぞ！ でも、追いかけてこしてえな。うーん……。じやんけん！

塚森 銀樹／じやんけん。じやんけんする

彩野 絵理／……でじやんけん！

塚森 銀樹／じゃあ、そうですね。幸運を振つていただ……あ、（咳き込み）

GM／じやあ、そうですね。幸運を振つていか！ こういうのつて……？

塚森 銀樹／大丈夫か？

彩野 絵理／大丈夫ですか？

天童 翔／1D10のちっちゃい方？

GM／1D5を振つてもらつて、でかい目が出た方にしましょう。

塚森 銀樹／はい。

天童 翔／はーい。

塚森 銀樹／1D5つて、これどう入力すればいい？ 1D5でいい？

GM／半角で1D5つて入力すればオツケー。

塚森 銀樹／オーチー、1D5…はい。ほい

つ！ 【じやんけん】 出目1。ああつ！

天童 翔／行くぞ、じやんけんポン！ ジヤ

んけん】出目3。

塚森 銀樹／ポン。

彩野 絵理／あつ。

G M／……天童の勝ちですね。

塚森 銀樹／おおう……。

天童 翔／俺の勝ち！

塚森 銀樹／よかつた、何も言わない方が恰

好良かつたッ……！

彩野 絵理／天童君、じやあこれよろしく。

天童 翔／おう！ 任せろ。

彩野 絵理／気をつけてね？ 2人とも。

塚森 銀樹／ああ。

彩野 絵理／渡せればいいんだから、最終的には、投げるとかでも大丈夫だから、とりあえず、気をつけて！

塚森 銀樹／行つてくる。

彩野 絵理／私は他が来ないか見てるから。

塚森 銀樹／彩野も気をつけてな。

彩野 絵理／うん。

塚森 銀樹／よし、いこう！

天童 翔／銀樹。本棚をどかしてくれ。

塚森 銀樹／（笑）……そうだな。それ、本を積んじやつたからね。

天童 翔／うん。

塚森 銀樹／よいしょ、よいしょ。よいしょ、よいしょ。よし。じゃあ、行きますか？

G M／はい。では、また書庫にあなたたちは向かうことでしょう。

天童 翔／おう。

塚森 銀樹／ザツザツザツザツザ。

G M／えー、やはり、部屋の中にはあの黒い何かが蠢いています。探索者たちを見つけると、また返せ、許さない、などと呟きながらこちらへ向かってきています。

天童 翔／天童は、簪を手のひらに乗せてひざまずいて、これだろ？ 収ますよ。

塚森 銀樹／あまりにもかっこいい（笑）

彩野 絵理／（笑）王子様みたい。

塚森 銀樹／かつけえ！ ジやあ、塚森は何かあつてもすぐに天童を庇えるように後ろで構えときます。

G M／はい。

G M／ハルカの簪を怪異の目の前に出すと、怪異がもがき苦しみ始めます。ヘドロの一部が、あなたの、天堂の手に絡みつき、離れる

と同時に簪を奪い取りました。口は、「私の『お母様』『赤い』『お母さん』などと呟いており、目から真っ白な雫が落ち始めます。

次第にヘドロは溶け始め、あなたたちの足元に広がることでしょう。しかし、靴などが汚れる様子はなく、床に染み込むよう消えてなくなりました。ヘドロの塊があつたところには1人、女性が立っています。女性用の袴に身を包み、栗色の髪を束ねてリボンを結んでいます。体の前で上品に重ねられた手には、先ほど取り込まれた簪が握られています。

「ありがとうございます。ずっと、探していたんです。」そう言つて嬉しそうに微笑んだ女性は、ハルカと瓜二つでした。敵意は、もう見られません。

天童 翔／ハルカさん、でいいんだよな？ 塚森 銀樹／そう、だな。サイズはだいぶ違います。

G M／（ハルカ）あなた達にそう言われると、私は……私がハルカですが……と答えてきます。

彩野 絵理／あれ？ 天童 翔／いやあ、そつかそつか。

塚森 銀樹／俺たちのこと知ってる？

G M／（ハルカ）「いえ……初めてまして、です

よね？ なんだか不思議な方たち」

塚森 銀樹／ああ……。
彩野 絵理／物音が止んだので、彩野合流し

てもいいですか？

G M／いいですよ。

塚森 銀樹／お願いします。

彩野 絵理／たつたつたつた……一人とも
大丈夫？

塚森 銀樹／あ、うん。

天童 翔／おおー、大丈夫！ グッドサイン
出します。

彩野 絵理／ああ、よかつた……つてその人
は、ハルカさん？

塚森 銀樹／みたいなんだけど、ちょっと違
う？

彩野 絵理／ちょっと、大きい？

塚森 銀樹／記憶もちょっと……。

彩野 絵理／けどよかつた、ハルカさん、無
事でよかつた。どうしてそんなに大きくなつ
たの？

G M／（ハルカ）「あの、あなたは誰、ですか？」

彩野 絵理／え？

G M／「なぜ私のことを？ いやでも、私の
ことなんて誰でも知つてるか……。あの、ほ
んと、簪のことはありがとうございました」
と言つて、お辞儀をしてきます。

彩野 絵理／ああ……じゃあさつきの黒い
塊……。でも、無事に簪、あなたの手元に戻
つてよかつたわ。

塚森 銀樹／そうだな。

彩野 絵理／そうだ、せつかくならこれも返
しておこうかな。この手帳とちょっと破けち
やつてる紙だけど、いる？ つていって、差
し出します。手帳と表彰状。

G M／（ハルカ）はい。ハルカはそれを素直に
受け取り「ありがとうございます」と深々と
お辞儀をしました。「あの、もしかして簪探
してくれていたんですか？」

彩野 絵理／そうだよ。あなたに言われてず
つと探してたの。あのあと見つけたんだけど、
ハルカちゃんが先にいなくなつていてから。
後ろの二人も一緒に探しててくれたんだ。

塚森 銀樹／バタバタしちゃつたけどな
(笑)
G M／「そう、だつたんですね。あなた達を
困らせてしまつて、いや、巻き込んでしまつ
て本当にごめんなさい。でもやつとここれで、
これで安らかに眠れます」そう言つて女性は
簪を大切そうに抱いています。やはりあの小
さなハルカの姿はありません。

天童 翔／別にいいつことだよ。

塚森 銀樹／謝るようなことでもないしな。
彩野 絵理／あなたが無事で簪が手元に残
つたならよかつた。もとはと言えば、あなた
が私たちを笑顔にしてくれたの。そのお礼だ
から。

天童 翔／いやあー、いい事して返すつてい
いね。

塚森 銀樹／巻き込んだなんて言わないで
いきます。

彩野 絵理／はい(笑)

G M／（笑）

彩野 絵理／（笑）

塚森 銀樹／巻き込んだなんて言わないで
ください、つて。大事なものだつたんでしょ
う。俺たちが探したくて探したものですから。

天童 翔／一緒に遊んでくれたお礼だ！

私たちのこと知らないんだもん。私は彩野絵
理。

塚森 翔／俺は天童翔！
天童 翔／俺は塚森銀樹。

G M／（ハルカ）「私は櫻木遥です」と答えて
くるでしようね。

塚森 銀樹／改めてよろしくな。
彩野 絵理／遥さん、あなたは、本当は何者
なの？

G M／（ハルカ）「私は……そうですね、昔の
こここの生徒と言つた方が適切なんでしょう
か。もうこの世にはいないんです。本当は」

彩野 絵理／そうだつたのね。

塚森 銀樹／簪、大事だつたんだな。

G M／「私、昔学校で簪を落としてしまつて、
それで、それ以外のことは覚えていないんで
す。ただ簪が欲しくて、見つけたくて……そ
れでおそらくあなた達を巻き込んでしまつ
たんだと思います」

彩野 絵理／すごく大事なもの……。

塚森 銀樹／巻き込んで……あつ、うんはい、
いきます。

彩野 絵理／はい(笑)

G M／（笑）

彩野 絵理／（笑）

塚森 銀樹／巻き込んだなんて言わないで
ください、つて。大事なものだつたんでしょ
う。俺たちが探したくて探したものですから。

気にすんな。

G M／（ハルカ）あなた達がそう言うと、ハルカは少し困ったように笑うことでしよう。

「この簪、私のお母様がくれたものなんです。入学祝いについて。それがすごくうれしくて、すごく大事なものだったので、本当にこれで何も悔いはありませんね」

彩野 絵理／そつか……。じやあもうど二か違うところに行つちやうの？

G M／「ええ、きっと。そんな気がします」

塚森 銀樹／本当の名前を知れたっていうのにもうお別れなのかあ。

彩野 絵理／私たちも帰らなきやね。

天童 翔／そうだなあ……もうバス行つちやつただろうし。

塚森 銀樹／あ、G M、G M。

G M／はい。

塚森 銀樹／さつきのみんなで折った折り紙とか遙に渡せたりしますか？

G M／いいですよ渡して。

塚森 銀樹／今の遙さんには記憶ないかもだけど、これあげる、つてさつき折ったマツチヨ鶴を手渡します。

彩野 絵理／それあげるの？（笑）

G M／（ハルカ）「な、なんですか？なんですかこれ？」

塚森 銀樹／ほら、ひとりひとつずつ。みんなあげよう。

天童 翔／いやあ、俺のはちょっとなあ……。

彩野 絵理／天童君のあげたらショックで

早く行つちやうかもしれないし。

塚森 銀樹／（笑）

彩野 絵理／とてもきれいな折り鶴だ。

G M／「素敵。大事にさせていただきますね」と答えてくれるでしようね。

塚森 銀樹／向こうでも元気でなあつて。

G M／（ハルカ）あなた達から様々のものを受け取つて、遙は少し寂しそうに笑うと目を閉じてあなた達を真っ直ぐと見据えます。「せめてものお詫びに、少しお手伝いをさせてください。頑張つているあなた達に」その言葉を聞き切るが早いか、あなた達は強烈な眼気に襲われていくことでしよう。

彩野 絵理／ふわあ……。

塚森 銀樹／う、ううん……。

彩野 絵理／急に眠い……。

G M／あなた達は目を覚まします。いるのはあのラウンジです。いつの間にか居眠りをしてしまつていたようです。

天童 翔／バタッ。

塚森 銀樹／ドタッ。

彩野 絵理／あなた達は目を覚まします。いるのはあのラウンジです。いつの間にか居眠りをしてしまつていたようです。

天童 翔／バタッ。

塚森 銀樹／う、ううん……。

彩野 絵理／急に眠い……。

天童 翔／天童寝てますずっと。
塚森 銀樹／翔！翔！起きろ！
彩野 絵理／ピノめつちや溶けてる。

天童 翔／じやあピノっていう単語に飛び起きます……ピノ！

塚森 銀樹／溶けてるけど。

G M／えー、あなた達は目を覚ますが、寝る寸前のことや、見ていた夢のことは覚えています。いや、うつすらと覚えているかもしれません。いや、うつすらと覚えているかもしれません。何か探していたこと、誰かに感謝されたこと。それでもその体験が夢だったのか現実だったのかはわからないでしょう。

彩野 絵理／なんか、なつがい夢を見ていた気がするんだけど……。

塚森 銀樹／そうだなあ、なんかちよつと元気出た気がする。

天童 翔／天童は鼻歌歌つてますね。気分がよさそうに。

彩野 絵理／私は逆にちよつと疲れたといふか。でもあれだ、早くサークルの新聞づくりを終わらせないと。

塚森 銀樹／あ、そうだ資料！

彩野 絵理／二人、思い出してね。

G M／はい、あなた達が机に視線をやると、自分たちが着手していたその課題が置かれています。加えて、見覚えのない資料が纏めて置いてありました。中身は求めていた取材の資料や、新聞の切り抜き、またはその新聞

に見えそうな写真や噂話が書かれている書籍でしょう。そしてあなた達は気づきます。食べかけだったはずのお菓子がなくなり、一枚のセピア色の紙切れが置かれていることに。“お疲れ様。ありがとう。”そう書かれたその文字に見覚えがあるようで、ないようで。そんな不思議な気持ちに囚われます。ふと時計を見ると、最終のバスの時間が間近に迫っていました。あなた達は大慌てで荷物をまとめ、ラウンジを飛び出していくます……。ということで、エモクロアTRPG『春を待つ』これにて終了です。お疲れ様でした！

彩野

絵理

・塚森

銀樹

・天童

翔

/お疲れ

様でした～！

●シナリオ背景

怪異は探していた。過去失った希望を。

怪異は妬んでいた。未来を生きる君たちを。

共鳴者が通う大学は過去、由緒正しき乙女が通う、女学校だった。今回のシナリオの怪異、“女生徒”はその頃に通っていた生徒だ。良妻賢母と大和撫子を目指にするその女学校は、時代の事もあり好きなことを好きなように学んだり、望む進路を目指したりは叶わなかった。

親が望むように、学校が望むように生きた櫻木遙は奨励される優等生にまでなった。しかし、本当の遙は良妻賢母ではなく、自立したキャリアウーマンになる将来を夢見ていた。しかし、両親は昔から厳しく、遙の望みを許さなかった。それでも諦めきれずなんとか説得した直後、入学祝いに、とくれた簪を学校で失くしてしまう。特別高価なものでは無かったが、両親は激昂。これを理由に進路は閉ざされてしまった。

その後、良家に嫁ぎ天寿を全うしたが、若い頃の後悔と鬱憤は晴れることはなかった。その怨念は彼女を怪異へと変貌させ、大学となった女学校に棲みつくようになった。幸か不幸か、彼女が愛した図書室を住処として。時代が変化し、それぞれの想う道へ進めるようになつた今、遙は学生を妬んでいた。羨ましい、妬ましい、そんな気持ちと共に、誰かに救って欲しいとも思っていた。そこで、NPC「ハルカ」を生み出し、それを使役することで学生を異空間に閉じ込めた。とはいっても、簪が見つけなければ、渡さなければあの真っ黒な怪異に取り込まれてしまう。そのため表立って言われないが、この大学には数名の行方不明者がいる。

彼女の望みは、簪を見つけること。赤い簪があれば、何処へだって行けると思っているから。

「ハルカ」と快く遊び、簪を見つけてくれる人を、ずっと待っていたのだ。



【シナリオ NPC】

ハルカ（櫻木遙）

▷あとがき

この度はサイコロ俱楽部の部誌「Xi:vol.21」（サイコロン）をお手に取っていただき、誠にありがとうございます。本誌がきっかけとなり、TRPGにご興味をお持ちいただけましたら幸いです。

本年は制作に取りかかるのが大変遅く、様々な面で苦労することとなりました。改めてスケジュール管理の大切さを痛感しております。

無理のある進行に合わせてくれた部員一同に心より感謝申し上げます。限られた時間の中での制作ではありましたが、とても充実したセッションに仕上げることができ、ほっと胸をなで下ろしているところです。

最後に、毎年恒例となっています、『深淵 RPG』付属の「運命カード」から一枚引きまして、終わりの言葉とさせていただきます。

「大地こそ我が命。これこそが最も確かなものなり。」
青の牧人

部長 amaohi

► 奥付

編集◆amaohi、サイコロ俱楽部一同

表紙◆amaohi

発行年月日：2025年10月25日
発行：サイコロ俱楽部
連絡先：跡見学園女子大学
新座キャンパス 学生会館
印刷会社：ちょ古っ都製本工房